

科目名	文章表現法 I (FB25A010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク①を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク②を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9 回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
10 回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11 回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12 回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13 回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14 回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15 回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16 回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)
9 回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと (標準学修時間120分)
10 回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと (標準学修時間120分)
11 回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと (標準学修時間120分)
12 回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと (標準学修時間120分)
13 回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと (標準学修時間120分)

	時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと（標準学修時間120分）
15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）

講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる (E) ②映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる (E) ③マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる (E) ④グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる (E) ⑤大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E) ⑥論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E) ⑦レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E) ⑧ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
成績評価（合格基準60	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 ※5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ※1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編Ⅱ、プレゼンテーションⅠ・Ⅱ、地域フィールドスタディ
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	学びの基礎論 (FB25B010)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう), 松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	教育学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間作り本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。本授業ではアクティブラーニング型の授業のため、グループでの活動を円滑にするための仲間づくりを行う。 (西村 次郎, 松尾 美香)
2 回	生涯にわたる学びと大学で学び生涯にわたる学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。特に、主体的な説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
3 回	生涯にわたる学びと自己実現充実した人生を送るために、学びが幸福追求とどのように関わるのか説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
4 回	ノートティキングノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
5 回	目標設定とタイムマネジメント、4年間の計画をたてる学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。目標を達成するためのタイムマネジメントや4年間の学びの計画、課外での学びについて計画を作成する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
6 回	リーディングスキル①著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識と関連づける練習も行う。 (西村 次郎, 松尾 美香)
7 回	リーディングスキル②著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識と関連づける練習も行う。 (西村 次郎, 松尾 美香)
8 回	振り返りの仕方3回目で設定した目標がどこまで達成できているかどうかを点検するために、振り返りの仕方を学ぶ (西村 次郎, 松尾 美香)
9 回	図書館の活用の仕方情報収集の概念と大学における図書館の利用方法について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
10 回	本のレビューとレコメンド本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論（レビュー）と推薦文（レコメンド）について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
11 回	アカデミックライティングレポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
12 回	効果的なアカデミックライティング分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
13 回	わかりやすいプレゼンテーションのためにプレゼンテーションの基本スキルについて説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
14 回	プレゼンテーションスライドの作成

	(西村 次郎,松尾 美香)
1 5 回	課題発表と振り返り学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
	(西村 次郎,松尾 美香)
1 6 回	課題発表と振り返り学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
	(西村 次郎,松尾 美香)

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと（標準学修時間60分）
2 回	生徒と学生に違いについて、まとめておくこと。（標準学修時間60分）
3 回	大学生活での目標を考えつつ、目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと（標準学修時間60分）
4 回	復習としてこれまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学修時間60分）
5 回	4年間のどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学修時間60分）
6 回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学修時間60分）
7 回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学修時間60分）
8 回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学修時間60分）
9 回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。（標準学修時間120分）
1 0 回	読んだ本の要点をまとめておくこと。（標準学修時間120分）
1 1 回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと。（標準学修時間120分）
1 2 回	11回目で学習したことを参考に、修正したレポートを作成すること。（標準学修時間120分）
1 3 回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと（標準学修時間120分）
1 4 回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること（標準学修時間120分）
1 5 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと（標準学修時間120分）
1 6 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと（標準学修時間120分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる（E）②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる（E）③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる（E）④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる（E）⑤グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる（E）
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60	課題への取り組み（30%）レポート（35%）課題研究発表（35%）より成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。＊5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。＊課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法Ⅰ、Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを行うため、グループ活動を行う。・講義中の飲食・私語は禁止する。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。・講義資料は講義開始時に配布する。配布資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。・講義中に課した課題についてのフィードバックは、課題提出後、解説を行います・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更

	の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 I (FB25B020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵＊ (おぎきみえ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 自己体験を言語化し、他人に伝えるポイントを説明する。 ①「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に①「得意な事」を指導する。
3 回	①「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	②「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に②「辛かった事」を指導する。
6 回	②「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	③「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に③「大切なもの(事)」の指導する。「中間評価試験」を実施する。
9 回	③「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
10 回	④「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
11 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に④「将来したい(事)」を指導する。
12 回	④「将来したい(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
13 回	⑤「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
14 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に⑤「私のターニングポイント」を指導する。
15 回	⑤「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
16 回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：①「得意な事」を考えておくこと。 復習：①「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：①「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：①「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：①「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：①「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：②「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：②「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：②「辛かった事」文章を作成すること。 復習：②「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：②「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：③「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)

7回	予習:③「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習:③「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習:③「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習:③「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「中間評価試験」の準備をすること。
9回	④「将来したい事」アウトラインを作成すること。 ④「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
10回	④「将来したい事」文章を作成すること。 ④「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
11回	④「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12回	⑤「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13回	⑤「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
14回	⑤「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
15回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
16回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準60)	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25C010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	山口立雄＊ (やまぐちたつお＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、種目、安全管理などの説明）をする。 履修希望者数が60人を超えた場合、抽選を行う。優先履修を希望する場合は事前に申し出る事。
2 回	バドミントンの基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
3 回	バドミントンのゲーム（復戦）をおこなう。
4 回	第一回班別学習。テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎をおこなう。
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
6 回	第二回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
8 回	第三回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 0 回	第四回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 2 回	卓球の基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
1 3 回	卓球の基礎とゲーム（復戦）をおこなう。
1 4 回	第五回班別学習。班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。
1 5 回	第六回班別学習。班替えをして班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。筆記試験を行う。

回数	準備学習
1 回	本授業で取り上げるスポーツ種目について、希望順位を決めておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	バドミントンの基本技術と単戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	バドミントン復戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 0 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 2 回	卓球の基礎技術とルール（単戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 3 回	卓球の基礎技術とルール（復戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 4 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 5 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。 本授業で取り上げたスポーツ種目に関する事項を復習しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	生涯のライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を養う。スポーツ活動を観戦、支援（ボランティア）する
------	--

	楽しさも身につけたい。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。 スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフ、バレーボール、フットサル、 バスケットボール、卓球、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60）	各種スポーツの進行、運営（30％）、知識（30％）、技術（30％）、安全への配慮（10％） により 成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツⅡ・Ⅲ、健康の科学、福祉環境論
教科書	使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	自宅mail：tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	・第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。2回目以降は加計記念体育館等で行います。四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！ ・第1回目の授業には必ず出席すること。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） - 抽選で受講できなくなった場合、次週以降の受講は認めません。 ・用具、場所の都合で種目および実施順が変更になることがあります。 ・実施種目に関する筆記試験を適宜行います。
試験実施	実施しない

科目名	学びの基礎論 (FB25C020)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう) , 松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	教育学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間作り本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。本授業ではアクティブラーニング型の授業のため、グループでの活動を円滑にするための仲間づくりを行う。 (全教員)
2 回	生涯にわたる学びと大学で学び生涯にわたる学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。特に、主体的な説明する。 (全教員)
3 回	生涯にわたる学びと自己実現充実した人生を送るために、学びが幸福追求とどのように関わるのか説明する。 (全教員)
4 回	ノートティキングノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。 (全教員)
5 回	目標設定とタイムマネジメント、4年間の計画をたてる学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。目標を達成するためのタイムマネジメントや4年間の学びの計画、課外での学びについて計画を作成する。 (全教員)
6 回	リーディングスキル①著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識と関連づける練習も行う。 (全教員)
7 回	リーディングスキル②著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識と関連づける練習も行う。 (全教員)
8 回	振り返りの仕方3回目設定した目標がどこまで達成できているかどうかを点検するために、振り返りの仕方を学ぶ (全教員)
9 回	図書館の活用の仕方情報収集の概念と大学における図書館の利用方法について説明する。 (全教員)
10 回	本のレビューと Recommend 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論 (レビュー) と推薦文 (Recommend) について説明する。 (全教員)
11 回	アカデミックライティングレポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。 (全教員)
12 回	効果的なアカデミックライティング分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。 (全教員)
13 回	わかりやすいプレゼンテーションのためにプレゼンテーションの基本スキルについて説明する。 (全教員)
14 回	プレゼンテーションスライドの作成

	(全教員)
15回	課題発表と振り返り学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
	(全教員)
16回	課題発表と振り返り学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと(標準学修時間60分)
2回	生徒と学生に違いについて、まとめておくこと。(標準学修時間60分)
3回	大学生活での目標を考えつつ、目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと(標準学修時間60分)
4回	復習としてこれまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。(標準学修時間60分)
5回	4年間のどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。(標準学修時間60分)
6回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。(標準学修時間60分)
9回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
10回	読んだ本の要点をまとめておくこと。(標準学修時間120分)
11回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
12回	11回目で学習したことを参考に、修正したレポートを作成すること。(標準学修時間120分)
13回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
15回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
16回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる(E)②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる(E)③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる(E)④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる(E)⑤グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる(E)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価(合格基準60)	課題への取り組み(30%)レポート(35%)課題研究発表(35%)より成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。*5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。*課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法Ⅰ、Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村(次)研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを行うため、グループ活動を行う。・講義中の飲食・私語は禁止する。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。・講義資料は講義開始時に配布する。配布資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。・講義中に課した課題についてのフィードバックは、課題提出後、解説を行います・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更

	の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 I (FB25C030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵＊ (おぎきみえ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 自己体験を言語化し、他人に伝えるポイントを説明する。 ①「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に①「得意な事」を指導する。
3 回	①「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	②「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に②「辛かった事」を指導する。
6 回	②「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	③「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に③「大切なもの(事)」の指導する。「中間評価試験」を実施する。
9 回	③「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
10 回	④「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
11 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に④「将来したい(事)」を指導する。
12 回	④「将来したい(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
13 回	⑤「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
14 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に⑤「私のターニングポイント」を指導する。
15 回	⑤「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
16 回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：①「得意な事」を考えておくこと。 復習：①「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：①「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：①「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：①「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：①「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：②「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：②「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：②「辛かった事」文章を作成すること。 復習：②「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：②「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：③「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)

7回	予習:③「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習:③「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習:③「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習:③「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「中間評価試験」の準備をすること。
9回	④「将来したい事」アウトラインを作成すること。 ④「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
10回	④「将来したい事」文章を作成すること。 ④「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
11回	④「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12回	⑤「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13回	⑤「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
14回	⑤「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
15回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
16回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準60)	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25C040)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸＊ (さきしげとしゆき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2 回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3 回	「レポートの書き方」について説明する。
4 回	「小論文の書き方 (1)」について説明する。
5 回	小論文の書き方 (2)」について説明する。
6 回	「小論文の書き方 (3)」について説明する。
7 回	「知る」ことと「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8 回	「言葉の違い」について説明する。 ●中間評価試験
9 回	「日本を知る (1)」について説明する。
10 回	「日本を知る (2)」について説明する。
11 回	「日本を知る (3)」について説明する。
12 回	「読書のすすめ」について説明する。
13 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
14 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
15 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
16 回	「敬語の使い方」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
2 回	将来の目標について考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間 120 分)
4 回	「作文」と「小論文」の違いについて考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	現代社会の「キーワード」「用語」について考えておくこと。 (標準学習時間 120 分)
6 回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて調べておくこと。 (標準学習時間 120 分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。(標準学習時間 180 分)
9 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 120 分)
10 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 120 分)
11 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 120 分)
12 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 120 分)
13 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 120 分)
14 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 120 分)

15回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 論理的な思考力を養い、社会人として必要な文章表現上の知識や技術を身に付ける。 3. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 4. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する) 生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べる ことに取り組む。 5. グローバリゼーション(国境がない)の状況において、外国人に、 日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。
達成目標	1. 論理的で、説得力のある「小論文」を書くことができる。 2. 教科書「60歳からの健康人生」から、文章の構成、表現、 用語・用字などの、正しい使い方を習得し、適切な文章を、 書くことができる。 3. 「自己啓発」に取り組むことができる。 4. 「読書感想文」が書けるようになる。 5. 「日本の世界遺産」(現在21件)の内容・特色を理解し、 外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価(合格基準60)	[春学期] 1. 授業における提出課題+時間外における提出課題 ... 50% 2. 中間評価試験 ... 50% ●1. と2. の総計で、得点率60%以上を合格とする。 [秋学期] 3. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における 「提出課題」 ... 50% 4. 最終評価試験 ... 50% ●3. と4. の総計で、得点率60%以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ 株式会社 ライフ・サポート／ ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	[春学期] ・授業における「課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容を チェックしたものを、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、 指導内容をチェックしたものを、締切日後の2週間後の授業の初めに 返却する。 [秋学期] ・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、 「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」に ついては、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、 それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。

	・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切後の2週間後の授業の初めに返却する。 〔春学期・秋学期共通〕 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25C050)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	石井成人＊ (いしいなるひと＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「文章表現法」講義概説 をする。
2 回	文章の構成、アウトライン をする。
3 回	アウトライン作成 をする。
4 回	アウトラインの推敲 をする。
5 回	アウトラインの完成 をする。
6 回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7 回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8 回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9 回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10 回	800字小論文の完成・提出 をする。
11 回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12 回	アウトライン添削・修正 をする。
13 回	800字小論文作成 をする。
14 回	800字小論文添削・修正 をする。
15 回	800字小論文の完成 をする。
16 回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1 回	なし
2 回	なし
3 回	課題テーマの草案 を作ること。(標準学習時間60分)
4 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
5 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
6 回	アウトラインの仕上げ すること。(標準学習時間60分)
7 回	800字小論文、序論の作成 すること。(標準学習時間60分)
8 回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。(標準学習時間60分)
9 回	800字小論文、結論の作成 すること。(標準学習時間60分)
10 回	800字小論文の仕上げ すること。(標準学習時間60分)
11 回	アウトラインの復習 すること。(標準学習時間60分)
12 回	アウトライン作成 1 すること。(標準学習時間60分)
13 回	アウトライン作成 2 すること。(標準学習時間60分)
14 回	800字小論文作成 すること。(標準学習時間60分)
15 回	800字小論文仕上げ をすること。(標準学習時間60分)
16 回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	小論文、レポートなどの作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を知り、認識し、そして実現すること(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章の構成をあやつる「アウトライン」の重要性を理解し、それに基づいて800字の小論文を独力で完成できること。
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
成績評価(合格基準60)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終評価試験(最終提出)(20%)の総合評価
関連科目	プレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp

注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25D010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	山口立雄＊ (やまぐちたつお＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、種目、安全管理などの説明）をする。 履修希望者数が60人を超えた場合、抽選を行う。優先履修を希望する場合は事前に申し出る事。
2 回	バドミントンの基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
3 回	バドミントンのゲーム（復戦）をおこなう。
4 回	第一回班別学習。テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎をおこなう。
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
6 回	第二回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
8 回	第三回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 0 回	第四回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 2 回	卓球の基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
1 3 回	卓球の基礎とゲーム（復戦）をおこなう。
1 4 回	第五回班別学習。班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。
1 5 回	第六回班別学習。班替えをして班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。筆記試験を行う。

回数	準備学習
1 回	本授業で取り上げるスポーツ種目について、希望順位を決めておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	バドミントンの基本技術と単戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	バドミントン復戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 0 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 2 回	卓球の基礎技術とルール（単戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 3 回	卓球の基礎技術とルール（復戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 4 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 5 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。 本授業で取り上げたスポーツ種目に関する事項を復習しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	生涯のライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を養う。スポーツ活動を観戦、支援（ボランティア）する
------	--

	楽しさも身につけたい。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。 スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフ、バレーボール、フットサル、 バスケットボール、卓球、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60	各種スポーツの進行、運営（30%）、知識（30%）、技術（30%）、安全への配慮（10%） ）により 成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツⅡ・Ⅲ、健康の科学、福祉環境論
教科書	使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	自宅mail：tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	・第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。2回目以降は加計記念体育館等で行います。四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！ ・第1回目の授業には必ず出席すること。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） 抽選で受講できなくなった場合、次週以降の受講は認めません。 ・用具、場所の都合で種目および実施順が変更になることがあります。 ・実施種目に関する筆記試験を適宜行います。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法Ⅰ (FB25D020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸＊ (さきしげとしゆき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2 回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3 回	「レポートの書き方」について説明する。
4 回	「小論文の書き方（１）」について説明する。
5 回	「小論文の書き方（２）」について説明する。
6 回	「小論文の書き方（３）」について説明する。
7 回	「知る」と「人生」について説明する。 （「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。）
8 回	「言葉の違い」について説明する。 ●中間評価試験
9 回	「日本を知る（１）」について説明する。
10 回	「日本を知る（２）」について説明する。
11 回	「日本を知る（３）」について説明する。
12 回	「読書のすすめ」について説明する。
13 回	「自己啓発（１）」について説明する。
14 回	「自己啓発（２）」について説明する。
15 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
16 回	「敬語」の使い方について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 （標準学習時間 120 分）
2 回	将来の目標について考えておくこと。（標準学習時間 120 分）
3 回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 （標準学習時間 120 分）
4 回	「作文」と「小論文」の違いについて考えておくこと。（標準学習時間 120 分）
5 回	現代社会の「キーワード」「用語」について考えておくこと。 （標準学習時間 120 分）
6 回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 （標準学習時間 120 分）
7 回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について考えておくこと。 （標準学習時間 120 分）
8 回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて調べておくこと。 （標準学習時間 120 分） ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。（標準学習時間 180 分）
9 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 （標準学習時間 120 分）
10 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 （標準学習時間 120 分）
11 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 （標準学習時間 120 分）
12 回	読書の意味について考えておくこと。 （標準学習時間 120 分）
13 回	自己啓発について考えておくこと。 （標準学習時間 120 分）
14 回	自己啓発について考えておくこと。 （標準学習時間 120 分）

15回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 論理的な思考力を養い、社会人として必要な文章表現上の知識や技術を身に付ける。 3. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 4. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する) 生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べる ことに取り組む。 5. グローバリゼーション(国境がない)の状況において、外国人に、 日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。
達成目標	1. 論理的で、説得力のある「小論文」を書くことができる。 2. 教科書「60歳からの健康人生」から、文章の構成、表現、 用語・用字などの、正しい使い方を習得し、適切な文章を、 書くことができる。 3. 「自己啓発」に取り組むことができる。 4. 「読書感想文」が書けるようになる。 5. 「日本の世界遺産」(現在21件)の内容・特色を理解し、 外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価(合格基準60)	[春学期] 1. 授業における提出課題+時間外における提出課題 ... 50% 2. 中間評価試験 ... 50% ●1. と2. の総計で、得点率60%以上を合格とする。 [秋学期] 3. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における 「提出課題」 ... 50% 4. 最終評価試験 ... 50% ●1. と2. の総計で、得点率60%以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ 株式会社 ライフ・サポート／ ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	[春学期] ・授業における「課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容を チェックしたものを、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、 指導内容をチェックしたものを、締切日後の2週間後の授業の初めに 返却する。 [秋学期] ・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、 「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」に ついては、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、 それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。

	・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切後の2週間後の授業の初めに返却する。 〔春学期・秋学期共通〕 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション I (FB25D030)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	石井成人＊ (いしいなるひと＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業概説 をする
2 回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3 回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4 回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5 回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6 回	PowerPoint資料の改良 をする
7 回	PowerPoint資料を使ったりリハーサル・プレゼンテーション をする
8 回	プレゼンテーション全体構成の再確認 中間試験 をする
9 回	別テーマによる二本目プレゼンテーション準備 をする
1 0 回	要点を押さえたスクリプトに改良 をする
1 1 回	説得力のある実証的なスクリプトに改良 をする
1 2 回	無駄のない効果的なパワーポイント資料に改良 をする
1 3 回	インパクトのあるパワーポイント資料に改良 をする
1 4 回	リハーサル・プレゼンテーション をする
1 5 回	最終プレゼンテーション をする
1 6 回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験 をする

回数	準備学習
1 回	なし
2 回	スクリプト準備 すること
3 回	スクリプト修正 すること
4 回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5 回	プレゼンテーション改良 すること
6 回	PowerPointの作成 すること
7 回	PowerPointの修正 すること
8 回	学習内容の整理 すること
9 回	基本構想・アイデアを準備すること
1 0 回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
1 1 回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
1 2 回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
1 3 回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
1 4 回	最終プレゼンテーション準備 すること
1 5 回	最終プレゼンテーション準備の仕上げること
1 6 回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	PowerPointを用いながらプレゼンテーションにおける非言語的要素の重要性を理解した発表を行うことができることを目指す。(パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、アピールポイントの軸のぶれない内容構成、など)
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
成績評価 (合格基準60)	課題添削・修正作業 (40%)、中間提出 (40%)、最終評価試験 (最終提出) (20%) の総合評価
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp

注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25G010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、種目、安全管理など）をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン（ダブルス）のゲームをする。
6 回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
10 回	バレーボールのゲームをおこなう。
11 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
10 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
11 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
12 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
13 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
14 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
15 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	生涯の各ライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に配慮しながら計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。 （教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	①各種スポーツの文化やルールを理解するとともに、実践し、他者と協同してゲームの進行、運営が出来ること。（D） ②スポーツ傷害の予防ができること。（D）
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
成績評価（合格基準60	各種スポーツの進行、運営（30％）、知識と技術（60％）安全への配慮（10％）
関連科目	生涯スポーツⅡ、Ⅲ、健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	B 3号館 3階 西村（次）研究室
注意・備考	初回はC 1号館柔道場でガイダンスを行う。生涯スポーツは加計記念体育館で実施する。四季を味わいながら山越えウォーキングを楽しみましょう！体育館シューズ、体操着を持参すること。受講者数の上限を60名とする。
試験実施	実施しない

科目名	プレゼンテーション I (FB25G020)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスおよびプレゼンテーションの基本について説明する 講義の概要、進め方、評価方法等を説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うために、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
3 回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション (非言語も含む) について説明する。
4 回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint 実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について説明する
5 回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。①趣味の概要、②趣味の楽しさ、③趣味の奥深さ、④自分の趣味への誘いの4枚のスライドを作成する。
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8 回	1回目から7回目の総括を説明し、グループ編成を行う。
9 回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
10 回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集しながら、調査分析を行う。
11 回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
12 回	よいプレゼンテーションについて説明する。 プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
13 回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
14 回	最終プレゼンテーション① 発表とフィードバックを実施する。
15 回	最終プレゼンテーション② 発表とフィードバックを実施する。
16 回	9回目～15回目の総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションが説明できるようにしておくこと (標準学修時間120分)
3 回	プレゼンテーションの基本的構造を理解しておくこと (標準学修時間120分)
4 回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解しておくこと (標準学修時間120分)
5 回	PowerPoint の操作方法について確認しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	PowerPoint を使ってプレゼンスライドを完成させ、発表ができるよう準備を整えておくこと (標準学修時間120分)
7 回	復習として、目的を明確にした内容にまとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。(標準学修時間120分)
8 回	これまでの学習を復習しておくこと (標準学修時間120分)
9 回	課題を考えてくること (標準学修時間120分)
10 回	調べた内容をまとめる。 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する (標準学修時間120分)

1 1 回	スライドの構成を考えてくること（標準学修時間120分）
1 2 回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること（標準学修時間120分）
1 3 回	プレゼンテーションの練習を行うこと（標準学修時間120分）
1 4 回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
1 5 回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
1 6 回	これまでの学習を整理しておくこと（標準学修時間120分）

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。 そのため、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 （教養教育センター単位認定のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる（E） ②図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる（E） ③自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる（E） ④自分の考えや主張を相手に伝えることができる（E） ⑤特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる（E） ⑥自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる（E） ⑦聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる（E）
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価（合格基準60	・実際のプレゼンを評価する（50%） 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト（25%） ・ワークシート（25%） より、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 ※5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ※グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論、地域フィールドスタディ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習を行う。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	学びの基礎論 (FB25H010)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう), 松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	教育学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間作り本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。本授業ではアクティブラーニング型の授業のため、グループでの活動を円滑にするための仲間づくりを行う。 (全教員)
2 回	生涯にわたる学びと大学で学び生涯にわたる学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。特に、主体的な説明する。 (全教員)
3 回	生涯にわたる学びと自己実現充実した人生を送るために、学びが幸福追求とどのように関わるのか説明する。 (全教員)
4 回	ノートティキングノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。 (全教員)
5 回	目標設定とタイムマネジメント、4年間の計画をたてる学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。目標を達成するためのタイムマネジメントや4年間の学びの計画、課外での学びについて計画を作成する。 (全教員)
6 回	リーディングスキル①著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識と関連づける練習も行う。 (全教員)
7 回	リーディングスキル②著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識と関連づける練習も行う。 (全教員)
8 回	振り返りの仕方3回目で設定した目標がどこまで達成できているかどうかを点検するために、振り返りの仕方を学ぶ (全教員)
9 回	図書館の活用の仕方情報収集の概念と大学における図書館の利用方法について説明する。 (全教員)
10 回	本のレビューと Recommend 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論 (レビュー) と推薦文 (Recommend) について説明する。 (全教員)
11 回	アカデミックライティングレポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。 (全教員)
12 回	効果的なアカデミックライティング分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。 (全教員)
13 回	わかりやすいプレゼンテーションのためにプレゼンテーションの基本スキルについて説明する。 (全教員)
14 回	プレゼンテーションスライドの作成

	(全教員)
15回	課題発表と振り返り学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
	(全教員)
16回	課題発表と振り返り学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと(標準学修時間60分)
2回	生徒と学生に違いについて、まとめておくこと。(標準学修時間60分)
3回	大学生活での目標を考えつつ、目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと(標準学修時間60分)
4回	復習としてこれまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。(標準学修時間60分)
5回	4年間のどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。(標準学修時間60分)
6回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。(標準学修時間60分)
9回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
10回	読んだ本の要点をまとめておくこと。(標準学修時間120分)
11回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
12回	11回目で学習したことを参考に、修正したレポートを作成すること。(標準学修時間120分)
13回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
15回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
16回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる(E)②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる(E)③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる(E)④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる(E)⑤グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる(E)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価(合格基準60)	課題への取り組み(30%)レポート(35%)課題研究発表(35%)より成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。*5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。*課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法Ⅰ、Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村(次)研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを行うため、グループ活動を行う。・講義中の飲食・私語は禁止する。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。・講義資料は講義開始時に配布する。配布資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。・講義中に課した課題についてのフィードバックは、課題提出後、解説を行います・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更

	の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	プレゼンテーション I (FB25H020)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「①プレゼンテーションの大切さ ②テキストと講義の進め方 ③受講シートの記入と提出」について説明する。
2 回	プレゼンテーションとは何か、について解説する。
3 回	スクリプトの組み立て方について解説する。
4 回	プレゼンテーション演習①を行い、演習を講評する。
5 回	人前で話すためのポイントについて解説する。
6 回	プレゼンテーションの技法①：印象で損をしないためのポイントについて解説する。
7 回	グループ・ミーティング①：進め方の注意点を確認し、ミーティングを行う。中間テストについて説明する。
8 回	前半の講義をまとめる。中間テストを行う。
9 回	プレゼンテーションの技法②：つかみ・アイコンタクト・身ぶりといった技法を解説する。
10 回	人の話を聞くこと、について解説する。
11 回	プレゼンテーション演習②：インタビューを行う。
12 回	プレゼンテーション演習②の講評を行う。プレゼンテーションの技法③：プレゼンテーションのツールと事前準備について解説する。
13 回	グループ・ミーティング②：役割分担を意識し、ミーティングを行う。
14 回	ペア・プレゼンについて解説する。
15 回	ペア・プレゼンの準備に取り組む。最終評価試験について説明する。
16 回	後半の講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：プレゼンテーションとは何か、について考えておくこと。 復習：プレゼンテーションの基本についてまとめること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：スクリプトの大切さを理解しておくこと。 復習：スクリプトの組み立てを確認すること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマで短いプレゼンテーションを準備しておくこと。 復習：講評で指摘された点を確認すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習：演習①についてレポートを書き、人前で話す際の心構えをまとめておくこと。 復習：人前で話すためのポイントを確認すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習：印象の大切さについて考えてくること。 復習：印象で損をしないための技法を確認すること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。 復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8 回	予習：プレゼンテーションのポイントをまとめ、中間テストの準備をしておくこと。 復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9 回	予習：聴衆にアピールする方法について考えてくること。 復習：つかみ・アイコンタクト・身ぶりにといった技法について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
10 回	予習：人の話を聞くこと、について意味を考えておくこと。 復習：人の話を聞くためのポイントを確認すること。(標準学習時間60分)
11 回	予習：インタビューの準備をしておくこと。 復習：インタビューについて自己点検しておくこと。(標準学習時間60分)
12 回	予習：プレゼンテーションのツールと事前準備について調べておくこと。 復習：ツールと事前準備について確認すること。(標準学習時間60分)
13 回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。 復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
14 回	予習：プレゼンテーションでペアを組む意味について考えてくること。 復習：ペアを組む意味を確認すること。(標準学習時間60分)
15 回	予習：指示されたテーマについて調べてくること。 復習：ペアとしての役割に取り組むこと。(

	標準学習時間120分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	自分の考えをわかりやすく、印象的に他人に伝えるための基本を身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられたテーマでスクリプトを構成し、数分程度の発表をすることができる。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現
成績評価（合格基準60	演習および提出課題（40%）、中間テスト（30%）、最終評価試験（30%）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不可とする。
関連科目	プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ
教科書	世良利和・藤野薫／「プレゼンテーションⅠ 基礎編（改定新版）」（黄色版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 9.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 10.本講義ではアクティブラーニングを実施し、グループワーク、グループディスカッションを行う。
試験実施	実施する

科目名	教養演習 (FB25H030)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部(～15),生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生に、自己紹介などをまじえた5分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。(1)
3 回	受講生に、自己紹介などをまじえた5分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。(2)
4 回	受講生に、自己紹介などをまじえた5分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。(3)
5 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。(1)
6 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。(2)
7 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。(3)
8 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。(4) 中間試験を実施する。 試験終了後解説をする。
9 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(1)
10 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(2) 発表用レジュメ作成についての説明をする。
11 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(3)
12 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
13 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
14 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
15 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
16 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5) 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	自分自身の特徴について整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	故郷の言語的特徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	岡山の文化的特徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)

16回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
講義目的	この演習は次の2つを柱とする。 1) 教員側が選んだ新聞記事を読みながら議論をする。 2) 各受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）についての簡単な個人発表を行なう。 上記のような作業を行なうことにより、思考能力、表現能力の向上を目指す。 （教養教育センター 単位認定の方針Eにもっとも強く関与。）
達成目標	様々なテーマに対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行なえること。
キーワード	比較文化、異文化理解、討論
成績評価（合格基準60	中間試験（50%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	比較文化論
教科書	使用しない。（プリントを配布する。）
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階 高池研究室
注意・備考	・受講者数の上限を50名とする。 ・中間試験・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・プリントの配布は授業中に行なう。 ・授業中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB25H070)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、T P Oに応じて使いわけることを学ぶ。
7 回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	中間まとめと中間評価試験
9 回	＊事例①を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 0 回	＊事例②を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 1 回	＊事例③を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 2 回	＊事例④を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 3 回	＊事例⑤を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 4 回	＊経営者のエピソード①を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 5 回	＊経営者のエピソード②を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 6 回	＊まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
9 回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
1 0 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。 ④ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 ⑤自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価 (合格基準60)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	※参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB25I010)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2 回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行う。
3 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。①
4 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。②
5 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。③
6 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。④
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑤
8 回	前半の講義をまとめ、中間テストを実施する。
9 回	後半の講義について概説する。
1 0 回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
1 1 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑥
1 2 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑦
1 3 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑧
1 4 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑨
1 5 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑩
1 6 回	後半の講義をまとめ、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間30分)
1 0 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 1 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 5 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 6 回	予習：最終評価試験の準備をして来ること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論
教科書	プリントを配布する。
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5.70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座（FB25I020）
英文科目名	Career Design
担当教員名	寺田盛紀（てらだもりき）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部(～15),生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【オリエンテーション】 教科書第2章に従い、キャリア形成学とはどういう学問なのかについて、キャリア教育やキャリア開発の取り組みの発展と関連させて説明する。合わせて、15回の講義内容の概要を説明する。
2 回	【第1章前半 日本におけるキャリア形成の仕組み】 このことに関して、従来の「移行モデル」について、日本的な雇用制度との関連で把握する。
3 回	【第1章後半 若者の「移行」における揺らぎ】 1990年代以降の移行における伝統的モデルの変化の様相を理解する。
4 回	【第3章 アメリカやドイツなどのキャリア教育】 学校・大学における生徒・学生のキャリア形成の計画的働きかけとしてのキャリア教育について、「母国」アメリカでのキャリア教育、ドイツのキャリア教育について写真データなどを交えて理解する。日本におけるキャリア教育の受容について比較し、共通性と差違について理解する。
5 回	【第4章】 高校を中心にして日本におけるキャリア教育の展開、教育課程上の位置づけについて、職業指導－進路指導（キャリアガイダンス）－キャリア教育という流れで把握し、教育課程上の実践形態を知る。
6 回	【第5章 高校におけるキャリア教育と進路指導の実際】 進学普通校、進路多様型普通校、専門（職業）高校の別にキャリア教育・進路指導の取り組みの特徴を理解する。
7 回	【ワークショップ1 自己理解】 学校現場でのキャリア支援の具体例として、また受講生自身の自己理解の演習の授業として、職業興味検査を体験する。教員が評価方を説明する。
8 回	【職業興味検査の自己評価法と中間テスト】 第7回の興味検査の自己評価を行い、これまでの中間的まとめのテストを行う。
9 回	【後半のオリエンテーションと導入としてのワークショップ2】 第8回につづき、職業観・キャリア観の形成についての知識をえるために、「キャリア・アンカー」論を講述し、実際にテスト体験を行う。
1 0 回	【第6章前半 高校生・大学生の職業観と職業選択 その1】 キャリア・アンカー論で見たような「職業観（価値観）」を希望進路や希望職業の生成との関連で、高校生・大学生に対する調査データを通して観察・理解する。入試や家庭教育など、教育・文化的要因の重要性が説明される。
1 1 回	【第6章後半 高校生・大学生の進路・職業の選択 その2】 進路や職業の選択が入学試験制度に強く作用される仕組み、また「キャリア・モデル」によって促進されたり、妨げられたりすることについて調査データを通して理解する。
1 2 回	【第7章 職業観とその変化・形成の仕組み】 たしかな進路や職業の選択は、生徒・若者のキャリアイベント（学習や仕事などの体験）に左右されることにみついてデータを通して理解する。
1 3 回	【第8章 職業観と生活時間】 高校生の24時間を日本、ドイツ、韓国の生徒達を例にして、比較してみる。国や文化の差違、共通性を理解する。
1 4 回	【第9章 大学生のキャリア形成】 なぜ大学生のキャリア形成が問題になるのかということについて、おもに文部科学省関連の議論を追跡し、理解する。
1 5 回	【第10章前半 成人のキャリア形成】 企業で働く日本の成人のキャリア形成の仕組みを「日本的な労働市場」（年功制や終身雇用）との関係で理解する。
1 6 回	【第10章後半 成人のキャリア形成支援システム】 企業内の労務や教育のシステムの存在について知り、就職後の自己のキャリアデザインに備える。同時に、これまでの理解度の最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	「キャリア形成」という概念について、ネット検索、図書館での書物に触れてみる。(60分)
2 回	「フリーター」について、入門書か論文を読んでみる。(120分)
3 回	「新時代の日本の経営」について予備知識を得ておく。(60分)
4 回	アメリカのハイスクールについて知識を持ておく。(60分)
5 回	自分が高校生の時の進路指導かキャリア教育の体験を纏めておく（発表を求める）。(60分)
6 回	友人・きょうだいがいれば、専門高校での進路指導について、取材をしておく（発表を求められる）。(60分)
7 回	自分の仕事・職業興味を振り返り、個人情報に触れない範囲で、発表できるようにしておく。(60分)

	60分)
8回	特になし
9回	自分が将来の職業を選択する上で、大切にしたいこと（価値）をメモし、授業に持参する。(60分)
10回	ドイツ、アメリカ、インドネシア、中国、韓国のいずれかの国高校について予備知識を持っておく。(60分)
11回	自分の「キャリア・モデル」（プラスの意味とマイナスの意味と）について、考えておく。(60分)
12回	ネット検索でよいので、職業観のアンケート調査結果の具体例を発表（答えること）ができるようにしておく。(60分)
13回	教科書の8章の生活時間調査用紙を参考に、自分の週間24時間を書いてみる。(60分)
14回	ネット検索で、2011年の中教審・キャリア教育・職業教育に関する答申に目を通しておく。（ネットダウンロード可）(60分)
15回	「年功制」、「終身雇用」、「定期配置転換」について、先輩か親と対話（電話）し、事前に実態の一端について知識を得ておく。(60分)
16回	15回すべての講義ノート、教科書を総ざらいしておく。(120分)

講義目的	この講義は「キャリア形成」ということについての心理学、社会学、経済学、教育学などの知識を伝え、それを自分の体験や取材・事前学習との関連で理解することを目指す。合わせて、高校や大学での仕事や職業についての自己理解を体験し、探索的経験を促すことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	各回の講義概要に期した理解目標、事前学習で指示している学習・取材・予備調査、その記録の週間、スキルを身につけること。
キーワード	キャリア形成、キャリア開発、キャリア教育、キャリアデザイン、進路、職業選択、職業観、高校生、大学生、成人職業人
成績評価（合格基準60%）	合格最低基準60%、最終評価試験（40%）、中間テスト（40%）、質問・発問への回答（20%）
関連科目	「企業と人間」、「生徒・進路指導論」（教育学部）
教科書	キャリア教育論－若者のキャリアと職業観の形成／寺田盛紀／学文社、2016年第2刷／ISBN 978-4-7620-2475-7、学内丸善社取り扱い）
参考書	その都度指示する
連絡先	キャリア支援センター河野
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	教養演習（FB25I030）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部(～15),生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
2 回	印象的な旅について手短に語る。（１）
3 回	印象的な旅について手短に語る。（２）
4 回	印象的な旅について手短に語る。（３）
5 回	岡山について語る（１）
6 回	岡山について語る（２）
7 回	岡山について語る（３）
8 回	試験と話し方の基本的な手順について説明し、中間試験を実施する。
9 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。（１）
10 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。（２）
11 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。（３）
12 回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。
13 回	レジュメの作成方法について説明する。
14 回	ディスカッション、5 分間スピーチの要領について説明する。
15 回	後半の総まとめを行う。
16 回	最終評価試験と今後の取り組みへの提言を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
3 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
4 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
5 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
6 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
7 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
8 回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 中間試験に備えておくこと。（標準学習時間 120 分）
9 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。（標準学習時間 120 分）
10 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。（標準学習時間 120 分）
11 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。（標準学習時間 120 分）
12 回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。（標準学習時間 120 分）
13 回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。（標準学習時間 120 分）
14 回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
15 回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。（標準学習時間 120 分）
16 回	最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間 120 分）

講義目的	まずは「旅」という誰しも体験可能なテーマについて語ることからスタートしますが、自分の興味がある分野を中心にさまざまなことを調べ、発表や討論によって「自分を表現する」力を養うことをねらいとしています。また資料やレジュメの作成方法を学ぶことによって、卒論や就職活動の基礎学力を身につけることも目指しています。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	学習テーマについて調べた内容を「まとめる」ことによって豊かな表現力を育み、グループ作業を通じて協調性を身につけることを目標としています。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
成績評価（合格基準60	演習（講義内でのプレゼンテーション等）80%、中間試験10%、最終評価試験10%により成

	績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	プリント配布
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は15～20名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご注意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25K010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
2 回	「枕草子」の読み方1
3 回	「枕草子」の読み方2
4 回	「枕草子」の読み方3
5 回	「枕草子」の読み方4
6 回	「降霊会の夜」の読み方1
7 回	「降霊会の夜」の読み方2
8 回	感想文 (評価試験に代わるもの) 執筆
9 回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
1 0 回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
1 1 回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
1 2 回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
1 3 回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える 1
1 4 回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える 2
1 5 回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
1 6 回	総括

回数	準備学習
1 回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
3 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
4 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
5 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
6 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
7 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
8 回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9 回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
1 0 回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。(標準学習時間90分)
1 1 回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
1 2 回	質問を考えておく。(標準学習時間90分)
1 3 回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
1 4 回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
1 6 回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすどころではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 (教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価 (合格基準60)	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」(プリント対応)、「降霊会の夜」浅田次郎(朝日文庫)

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	健康の科学 (FB25K040)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方、内容と目的、受講の心得について説明する。人体の構造について説明する。
2 回	スキヤモンの発達・発育曲線と体力について説明する。
3 回	生活と健康、思春期以降変化する健康観と健康の定義について説明する。
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明する。
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明する。
8 回	主な生活習慣病について説明する。
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。
11 回	適応機制の種類と問題点について説明する。
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明する。
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明する。
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明する。
15 回	心身症について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業内容と目的の確認をすること。人体の構造について説明できるように復習を行うこと。スキヤモンの発達・発育曲線と体力について調べておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	スキヤモンの発達・発育曲線と体力について説明できるように復習すること。生活と健康、健康観と健康の定義について調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	生活と健康、健康観と健康の定義について説明できるように復習すること。わが国の平均寿命と疾病構造の変化について調べておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明できるように復習すること。健康寿命、成人病と生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明できるように復習すること。病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について調べておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明できるように復習すること。肥満症とメタボリックシンドロームについて調べておくこと。（標準学習期間120分）
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明できるように復習すること。主な生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	主な生活習慣病について説明できるように復習すること。サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について調べておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明できるように復習すること。マズローの欲求階層説について調べておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	マズローの欲求階層説について説明できるように復習すること。適応機制の種類と問題点について調べておくこと。（標準学習時間120分）
11 回	適応機制の種類と問題点について説明できるように復習すること。ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明できるように復習すること。ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明できるように復習すること。心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明できるように復習すること。心身症について調べておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	心身症について説明できるよう復習すること。講義全体の復習・整理をする。（標準学習時間180分）

16回	最終評価試験を通して、1回～15回までの内容を復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間180分）
講義目的	近年の健康問題は、生活習慣病や心理社会的ストレスが強くかかわった病気が主要となり、ライフスタイルが健康水準に大きく影響していることが明らかになっている。現在では、自分自身で健康を獲得していかなければならないという考えにたち、将来にわたってよりよく生きていくために、一人ひとりが健康について主体的に学び、考え、判断し、責任ある決定をすることができるようにする。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	きわめて多様な価値観が共存する今日の世界の中では、心身両面の健康課題も多い。健康を保持増進するためには、正しい知識と適切な行動が重要であることを理解する。（D） ①生活習慣病とその予防について理解する。（D） ②マズローの欲求階層説と、適応機制について理解する。（D） ③ストレスとストレスマネジメントについて理解する。（D） ④心身相関と心身症について理解する。（D）
キーワード	生活習慣病、メタボリックシンドローム、メンタルヘルス（精神衛生）、心身症
成績評価（合格基準60）	最終評価試験70%、提出課題30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。講義で資料を配布する。
参考書	指定しない。
連絡先	B3号館5階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	講義資料は、講義の中で適宜配布する。 講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 講義中に課した提出課題についてのフィードバックは授業で資料を用いて行う。 課題の提出期限を守ること。
試験実施	実施する

科目名	健康の科学 (FB25L010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹＊ (よしむらなおき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のそのⅠとしてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のそのⅡとして意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解そのⅢとして人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
成績評価 (合格基準60)	課題 (30%)、最終評価試験 (70%)
関連科目	生涯スポーツⅠ、Ⅱ、Ⅲ
教科書	プリント類などを適宜配布する
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	

注意・備考	第1回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB25L020)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、T P Oに応じて使いわけることを学ぶ。
7 回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	中間まとめと中間評価試験
9 回	＊事例①を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 0 回	＊事例②を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 1 回	＊事例③を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 2 回	＊事例④を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 3 回	＊事例⑤を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 4 回	＊経営者のエピソード①を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 5 回	＊経営者のエピソード②を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 6 回	＊まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
9 回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
1 0 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。 ④ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 ⑤自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価 (合格基準60)	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	※参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25L030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
2 回	「枕草子」の読み方1
3 回	「枕草子」の読み方2
4 回	「枕草子」の読み方3
5 回	「枕草子」の読み方4
6 回	「降霊会の夜」の読み方1
7 回	「降霊会の夜」の読み方2
8 回	感想文 (評価試験に代わるもの) 執筆
9 回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
1 0 回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
1 1 回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
1 2 回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
1 3 回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える 1
1 4 回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える 2
1 5 回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
1 6 回	総括

回数	準備学習
1 回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
3 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
4 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
5 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
6 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
7 回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
8 回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9 回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
1 0 回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。(標準学習時間90分)
1 1 回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
1 2 回	質問を考えておく。(標準学習時間90分)
1 3 回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
1 4 回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
1 6 回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすどころではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 (教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価 (合格基準60)	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」 (プリント対応)、「降霊会の夜」 浅田次郎 (朝日文庫)

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	生涯スポーツ (FB25M010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所・内容・目的・受講の心得について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項の説明を行った後、“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、練習と簡易ゲームをする。
4 回	シングルのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
5 回	ダブルスのルール説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
6 回	選択種目（ソフトボール、テニス）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
8 回	6人制バレーボールのルールと審判法について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
9 回	6人制バレーボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
10 回	選択種目（フットサル、卓球）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス（攻撃側）とディフェンス（守備側）について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて戦術の話し合いをした後、練習とゲームをする。
14 回	選択種目（ソフトボール、テニス、フットサル、卓球）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。実技テストの説明を行った後、練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認を行うこと。「体力」について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
2 回	「体力」について説明ができるように復習を行うこと。バドミントンの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	バドミントンの歴史、基本技術について説明ができるように復習を行うこと。シングルのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
4 回	シングルのルールについて説明ができるように復習を行うこと。ダブルスのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	ダブルスについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目（ソフトボール、テニス）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バレーボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
7 回	バレーボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。6人制バレーボールのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
8 回	6人制バレーボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バレーボールに必要なチームワークについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
9 回	バレーボールのチームワークについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目（フットサル、卓球）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
10 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
11 回	バスケットボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
12 回	バスケットボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールに必要なチームワークについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明できるように復習を行うこと。選択種目（ソフトボール、テニス、フットサル、卓球）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）

1 4 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。実技テストの準備をしておくこと（標準学習時間120分）
1 5 回	生涯スポーツの意義と役割について復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間60分）

講義目的	授業で行う種目を通して、主体的にスポーツや運動を行ったり楽しんだりすることで、生涯にわたってスポーツや運動を実践していける習慣や能力を育てるこ。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	①授業における各スポーツ種目の歴史・特性・審判法等について理解する。（D） ②各スポーツ種目を楽しむためのチームワーク（協力と助け合い方法）、ルール・マナーの遵守、安全への配慮について理解する。（D） ③コミュニケーション能力（説明力、判断力、傾聴力、推察力等）を身につける。（D） ④スポーツと神経系について理解する（運動は脳を鍛える望ましい行動で、適切な運動は神経系に良い影響を及ぼす）。（D）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
成績評価（合格基準60	積極性（30％）、ルール・マナーの遵守（20％）、協調性（20％）、安全への配慮（20％）、技術（10％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。
参考書	指定しない。
連絡先	B3号館5階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間 (FB25M020)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2 回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行う。
3 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。①
4 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。②
5 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。③
6 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。④
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑤
8 回	前半の講義をまとめ、中間テストを実施する。
9 回	後半の講義について概説する。
1 0 回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
1 1 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑥
1 2 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑦
1 3 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑧
1 4 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑨
1 5 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑩
1 6 回	後半の講義をまとめ、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間30分)
1 0 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 1 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 5 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
1 6 回	予習：最終評価試験の準備をして来ること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論
教科書	プリントを配布する。
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5.70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法Ⅱ (FB25M070)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	藤野薫＊ (ふじのかおる＊)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
2 回	文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。
3 回	小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く②：ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8 回	前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。
9 回	広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10 回	広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11 回	文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。
12 回	エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13 回	エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。
14 回	文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。
15 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
16 回	文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
2 回	予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。（標準学習時間45分）
3 回	予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。（標準学習時間60分）
5 回	予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。（標準学習時間90分）
6 回	予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。（標準学習時間90分）
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。（標準学習時間90分）
8 回	予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。（標準学習時間120分）
9 回	予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
10 回	予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。（標準学習時間60分）
11 回	予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
12 回	予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
13 回	予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。（標準学習時間90分）
14 回	予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。（標準学習時間60分）
15 回	予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
16 回	予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25N010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫＊ (ふじのかおる＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する③：参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。
8 回	前半の講義ををまとめる。中間テストを実施する。
9 回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10 回	経験や知識の文章化に取り組む。
11 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13 回	対立する意見を使って文章を構成する。
14 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16 回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習：前半の講義内容を確認し、中間試験の準備をすること。 復習：中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9 回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。

	(標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。 原則として、演習をすべて行うことが中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅱ
教科書	藤野薫・三木恒治・世良利和／文章表現法Ⅰ基礎編(パステルブルー版)／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	スポーツとフィールド科学（ボウリング）（FB25N050）
英文科目名	Sports (Bowling)
担当教員名	吉村直樹＊（よしむらなおき＊）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	生涯スポーツとしてのボウリングの目的、内容、心得を理解させる。
2 回	ボウリング学習の意義と性質、基本動作タイミングを理解する。
3 回	スコア・スペアのとり方 3・6・9 理論、⑦⑩スペアアングルを理解させる。
4 回	規格について、アドレス、スイング、スタンス、練習投球を理解させる。
5 回	リーグ戦、練習投球について理解させる。
6 回	リーグ戦第 1 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
7 回	リーグ戦第 2 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
8 回	リーグ戦第 3 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
9 回	リーグ戦第 4 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 0 回	リーグ戦第 5 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 1 回	リーグ戦第 6 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 2 回	リーグ戦第 7 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 3 回	リーグ戦第 8 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 4 回	ゲームの成績により順位決定戦を実施し、より深くボウリングを理解する。
1 5 回	チーム戦を実施し仲間意識の必要性を確認する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し講義の内容を把握しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	ボウリングの歴史、マナー、シューズ、ボウルについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	スコアのつけ方を事前に調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	アドレス、スタンス、スイングについて事前に調べイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	前回の講義の反省点を考えておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	リーグ戦のやり方について熟知しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
7 回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
9 回	前回の講義の反省をしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 0 回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 1 回	今迄のアベレージスコアを出して、よりスコアを高める為の努力を考えておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 2 回	よりスコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 3 回	自分の得意、不得意が何であるかを考えておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 4 回	自己の技術を振り返りより高等な技術を目指すこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 5 回	チーム戦での協力と、表彰式の方法を確認すること。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	より深くボウリングを理解することを目的にする。 専門的にボウリングに取り組むことから生涯スポーツの糸口になるように各自努力する。 （教養教育センター単位認定方針の D にもっとも強く関与する）
達成目標	初歩から始めて専門的にボウリングを追求することで技術力、調整力、またチームを組みお互いに協力することにより協調性を学び、体を動かすことで、身体的、精神的な健康増進を計ること。
キーワード	専門の追求、技術、体力、健康、礼儀
成績評価（合格基準 60）	スコアのアベレージ（6 0 %） 態度、姿勢、技術等（2 0 %） ボウリングの知識（2 0 %）
関連科目	健康の科学 生涯スポーツⅠ、Ⅲ
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	
注意・備考	第 1 回目の授業には必ず出席すること。 【第 1 回目の授業は C 1 号館 2 階・トレーニングルームⅡ（柔道場）に集合のこと。】

	実技場所：両備ボウル（岡山市北区下石井二丁目10番1号 ジョイポリス3階） 有料実費 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため）
試験実施	実施しない

科目名	健康の科学 (FB25P010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	山口立雄* (やまぐちたつお*)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第2週からの受講は認めない。正当な理由で欠席する場合は事前に連絡すること。ガイダンス。text購入指示、講義の進め方などを説明する。
2 回	WHOの健康の定義を中心に、心身の健康について解説する。
3 回	身体の仕組みと働きについて解説する(text第1章)。
4 回	運動と生活習慣病について解説する(第2章)。
5 回	運動と生存年数の関係について解説する(第4章)。
6 回	運動不足の影響について解説する(第10章)。
7 回	体力要素の一つである有酸素性運動能力とエアロビクス運動について解説する(第8章)。
8 回	有酸素性運動能力のトレーニングについて解説する。
9 回	筋繊維と筋力について解説する(第7章)。
10 回	筋力のトレーニングについて解説する(第7章)。
11 回	栄養について解説する。
12 回	食生活と健康について解説する(第3章)。
13 回	体脂肪と健康について解説する(第13章)。
14 回	健康的な学生生活とはどういうものかについて解説する(第15章)。
15 回	健康問題Q&A、まとめを実施する。

回数	準備学習
1 回	健康、スポーツ等の分野で興味がある事項を考えておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	人生、生き甲斐とは何か。また、それらと健康のかかわりについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	身体を構成する器官系とその機能について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	生活習慣病とは何かについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ヒトの寿命について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	運動不足は身体にどのような変化をもたらすか調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	エアロビクスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	有酸素性運動能力が競技成績に与えるスポーツ種目について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	筋繊維の種類と特性について調べておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	筋力にはどのような種類があるか調べておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	三大栄養素について調べておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	食生活が関与する疾患について調べておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	肥満と体脂肪の関係について調べておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	自己の日々の生活について、健康的である事項と健康を阻害している事項について考えてみる。(標準学習時間120分)
15 回	健康に関して興味があり未解決の質問事項を準備しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	生体の構造や機能を理解し、健康と体力に関する知見を獲得する。(教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	心身の健康を維持増進する方法の実践力を培う。
キーワード	健康、体力、運動、休養、栄養、トレーニング、スポーツ、生活習慣病
成績評価(合格基準)	60 課題提出(2回程度)(50%)、小試験(回数未定)(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を60%以上を合格とする
関連科目	生涯スポーツ、生涯スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ、福祉環境論
教科書	若い時に知っておきたい運動・健康とからだの秘密/田口貞善、山地啓司/近代科学社 978-4-7649-4001-7
参考書	適宜紹介する。
連絡先	自宅: mail: tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	第1回目の授業には必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。

	初回授業後に履修が確定するのでそれまで教科書の購入はしないで下さい。 講義期間中に複数回の小試験を行い定期試験に替えます。 以下の携帯用掲示板に連絡事項を掲示するので、適宜、チェックして下さい。 http://id50.fm-p.jp/521/ridai/
試験実施	実施しない

科目名	教養演習（FB25P020）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部(～15),生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
2 回	印象的な旅について手短に語る。（1）
3 回	印象的な旅について手短に語る。（2）
4 回	印象的な旅について手短に語る。（3）
5 回	岡山について語る（1）
6 回	岡山について語る（2）
7 回	岡山について語る（3）
8 回	試験と話し方の基本的な手順について説明し、中間試験を実施する。
9 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。（1）
10 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。（2）
11 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。（3）
12 回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。
13 回	レジュメの作成方法について説明する。
14 回	ディスカッション、5 分間スピーチの要領について説明する。
15 回	後半の総まとめを行う。
16 回	最終評価試験と今後の取り組みへの提言を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
3 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
4 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
5 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
6 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
7 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間 120 分）
8 回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 中間試験に備えておくこと。（標準学習時間 120 分）
9 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。（標準学習時間 120 分）
10 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。（標準学習時間 120 分）
11 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。（標準学習時間 120 分）
12 回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。（標準学習時間 120 分）
13 回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。（標準学習時間 120 分）
14 回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
15 回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。（標準学習時間 120 分）
16 回	最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間 120 分）

講義目的	まずは「旅」という誰しも体験可能なテーマについて語ることからスタートしますが、自分の興味がある分野を中心にさまざまなことを調べ、発表や討論によって「自分を表現する」力を養うことをねらいとしています。また資料やレジュメの作成方法を学ぶことによって、卒論や就職活動の基礎学力を身につけることも目指しています。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	学習テーマについて調べた内容を「まとめる」ことによって豊かな表現力を育み、グループ作業を通じて協調性を身につけることを目標としています。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
成績評価（合格基準60	演習（講義内でのプレゼンテーション等）80%、中間試験10%、最終評価試験10%により成

	績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	プリント配布
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は15～20名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご注意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法Ⅰ（FB25P030）
英文科目名	Technical WritingⅠ
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス（講義の進め方、評価法などの説明）
2回	「枕草子」の読み方1
3回	「枕草子」の読み方2
4回	「枕草子」の読み方3
5回	「枕草子」の読み方4
6回	「降霊会の夜」の読み方1
7回	「降霊会の夜」の読み方2
8回	感想文（評価試験に代わるもの）執筆
9回	ガイダンス（講義の進め方、評価法などの説明）
10回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
11回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
12回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
13回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
14回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
15回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
16回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。（標準学習時間90分）
2回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
3回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
4回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
5回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
6回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
7回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
8回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9回	テキストを熟読しておくこと。（標準学習時間90分）
10回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。（標準学習時間90分）
11回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。（標準学習時間90分）
12回	質問を考えておく。（標準学習時間90分）
13回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。（標準学習時間90分）
14回	自分の意見をまとめておくこと。（標準学習時間90分）
15回	自分の意見をまとめておくこと。（標準学習時間90分）
16回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすどころではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらうことから始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 （教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する）
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価（合格基準60	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」（プリント対応）、「降霊会の夜」浅田次郎（朝日文庫）

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	健康の科学 (FB25Q010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹＊ (よしむらなおき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のそのⅠとしてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のそのⅡとして意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解そのⅢとして人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
成績評価 (合格基準60)	課題 (30%)、最終評価試験 (70%)
関連科目	生涯スポーツⅠ、Ⅱ、Ⅲ
教科書	プリント類などを適宜配布する
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	

注意・備考	第1回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25Q020)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所・内容・目的・受講の心得について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項の説明を行った後、“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、練習と簡易ゲームをする。
4 回	シングルのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
5 回	ダブルスのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
6 回	選択種目（ソフトボール、テニス）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
8 回	6人制バレーボールのルールと審判法について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
9 回	6人制バレーボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
10 回	選択種目（フットサル、卓球）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス（攻撃側）とディフェンス（守備側）について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて戦術の話し合いをした後、練習とゲームをする。
14 回	選択種目（ソフトボール、テニス、フットサル、卓球）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。実技テストの説明を行った後、練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認を行うこと。「体力」について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
2 回	「体力」について説明ができるように復習を行うこと。バドミントンの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	バドミントンの歴史、基本技術について説明ができるように復習を行うこと。シングルのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
4 回	シングルのルールについて説明ができるように復習を行うこと。ダブルスのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	ダブルスについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目（ソフトボール、テニス）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バレーボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
7 回	バレーボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。6人制バレーボールのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
8 回	6人制バレーボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バレーボールに必要なチームワークについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
9 回	バレーボールのチームワークについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目（フットサル、卓球）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
10 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
11 回	バスケットボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
12 回	バスケットボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールに必要なチームワークについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明できるように復習を行うこと。選択種目（ソフトボール、テニス、フットサル、卓球）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）

1 4 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。実技テストの準備をしておくこと（標準学習時間120分）
1 5 回	生涯スポーツの意義と役割について復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間60分）

講義目的	授業で行う種目を通して、主体的にスポーツや運動を行ったり楽しんだりすることで、生涯にわたってスポーツや運動を実践していける習慣や能力を育てるこ。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	①授業における各スポーツ種目の歴史・特性・審判法等について理解する。（D） ②各スポーツ種目を楽しむためのチームワーク（協力と助け合い方法）、ルール・マナーの遵守、安全への配慮について理解する。（D） ③コミュニケーション能力（説明力、判断力、傾聴力、推察力等）を身につける。（D） ④スポーツと神経系について理解する（運動は脳を鍛える望ましい行動で、適切な運動は神経系に良い影響を及ぼす）。（D）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
成績評価（合格基準60	積極性（30％）、ルール・マナーの遵守（20％）、協調性（20％）、安全への配慮（20％）、技術（10％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。
参考書	指定しない。
連絡先	B3号館5階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 I (FB25Q030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する③：参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。
8 回	前半の講義ををまとめる。中間テストを実施する。
9 回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10 回	経験や知識の文章化に取り組む。
11 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13 回	対立する意見を使って文章を構成する。
14 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16 回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習：前半の講義内容を確認し、中間試験の準備をすること。 復習：中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9 回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。

	(標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。 原則として、演習をすべて行うことが中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅱ
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法Ⅰ基礎編(群青色版)／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25R010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹＊ (よしむらなおき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンスにて講義概要、種目、安全管理など説明する。
2 回	バドミントンを実施する。
3 回	バドミントンを実施する。
4 回	バドミントンを実施する。
5 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
6 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
7 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
8 回	バレーボールを実施する。
9 回	バレーボールを実施する。
1 0 回	バレーボールを実施する。
1 1 回	バスケットボールを実施する。
1 2 回	バスケットボールを実施する。
1 3 回	バスケットボールを実施する。
1 4 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。
1 5 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、どのような種目をするのか把握しておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
2 回	バドミントンのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
3 回	バドミントンの基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
4 回	試合ルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
5 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
6 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
7 回	野外スポーツの疾病、傷害予防について調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
8 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
9 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 0 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 1 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 3 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 4 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 5 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)

講義目的	生涯の各ステージにおいて、環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を身につけるようにする。 スポーツ活動を観戦、支援（ボランティア）する楽しさを身につけた留用にする。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60）	各種スポーツの進行、運営（3 0 %） 知識と技術（6 0 %） 安全への配慮（1 0 %）
関連科目	生涯スポーツⅡ、Ⅲ健康の科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	
注意・備考	第 1 回目の授業はC 1 号館 2 階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。 第 1 回目の授業には必ず出席すること。 6 0 名超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） 第 2 回目以降の授業は、加計記念体育館（笹ヶ瀬キャンパス）で行います。

	四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法Ⅰ（FB25R030）
英文科目名	Technical WritingⅠ
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス（授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について）、および文章を書くということ（手書き、ワープロソフトの使用の両方を視野に入れて、文章を書くうえで最も重要な点）を説明する。
2回	文章を書く際の注意点（1）一字数制限、段落分けとインデント、英数字や句読点・括弧の使い方などを説明する。
3回	文章を書く際の注意点（2）一感想文とレポート・論文との違い、常体と敬体、話し言葉と文章語などを説明する。
4回	文章を書く際の注意点（3）一文の適切な長さ、文のねじれと呼応表現、避けるべき表現などを説明する。
5回	文章を書く際の注意点（4）一漢字使用の目安、誤字脱字、てにをは・言葉の誤用などを説明する。
6回	レポートや論文の構成（1）一序論、本論、結論、参考文献表という基本的な構成法などを説明する。
7回	レポートや論文の構成（2）一引用と剽窃の違い、正しい引用の仕方などを説明する。
8回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。
9回	文章を書く際の細かい注意点について復習する。
10回	正しい根拠にたどり着く方法（資料の検索方法、見分け方、インターネットと出版物など）を説明する。
11回	リーディングの技術（1）一文章の構造分析と要約の方法を説明する。
12回	リーディングの技術（2）一文章の構造分析と要約の方法を説明する。
13回	リーディングの技術（3）一文章の構造分析と要約の方法を説明する。
14回	ライティングの技術（1）一5段落から成る文章の書き方を説明する。
15回	ライティングの技術（2）一5段落から成る文章の書き方を説明する。
16回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで最も重要な点は何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
8回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）

	れておくこと。（標準学習時間120分）
9回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで注意すべき点は何か」という問いに対する答え（複数）をまとめておくこと。（標準学習時間30分）
10回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
11回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
12回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
13回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
14回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
15回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
16回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は、論文やレポートの作成といった大学での学びに限らず、社会に出てからも日誌や報告書の作成などといった様々な場面で必要となる「読みやすい文章」「わかりやすい文章」を書くスキルを習得することである。最初に大学生が文章を書く際に間違いやすい細かい点を説明し、その後で、具体的な文章の構成方法を学んでいく。（教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する）
達成目標	①文章を書く際に気を付けるべき点に注意し、読みやすく、わかりやすい文章を書くことができる。 ②適切な順序で文章を構成し、信頼できる根拠に基づいて、説得力のある文章を書くことができる。
キーワード	文章表現、レポート、論文
成績評価（合格基準60	
関連科目	文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間 (FB25R040)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、T P Oに応じて使いわけることを学ぶ。
7 回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	中間まとめと中間評価試験
9 回	＊事例①を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 0 回	＊事例②を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 1 回	＊事例③を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 2 回	＊事例④を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 3 回	＊事例⑤を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 4 回	＊経営者のエピソード①を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 5 回	＊経営者のエピソード②を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 6 回	＊まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
9 回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
1 0 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。 ④ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 ⑤自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価 (合格基準60%)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	※参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座（FB25R050）
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司＊（いいだてつし＊）, 桑田朋美＊（くわたともみ＊）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （※講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （※演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （※具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
2 回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田 朋美＊）
3 回	【コミュニケーションの強化①】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田 哲司＊）
4 回	【コミュニケーションの強化②】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田 朋美＊）
5 回	【セルフ・コントロール】 ビジネスマインドの軸である「チームワーク力」の発揮と強化を視野に入れたビジネス心理学と自己コントロール法について、体験ワークを通じて理解・習得する。 （桑田 朋美＊）
6 回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 （飯田 哲司＊）
7 回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田 哲司＊）
8 回	【実践的表現力強化演習】 集団の中での自分の活かし方を知る基礎であるブレインストーミングを通じて、自己理解と表現能力のアップを図る演習を実施する。 【第1回からの振り返り・中間テスト】 ここまでの講義を振り返り、習得度合いの確認とチェックを行う。 （桑田 朋美＊）
9 回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 （桑田 朋美＊）
10 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 （飯田 哲司＊）
11 回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー&ビジネスマナーの考え方と意味

	を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
1 2 回	【チーム力の強化演習①】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
1 3 回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
1 4 回	【チーム力の強化演習②】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
1 5 回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「集団の中での自分」の在り方・見せ方について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
1 0 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	自分をコントロールするとはどういうことか、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。(標準学習時間 60分)

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25S010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹＊ (よしむらなおき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンスにて講義概要、種目、安全管理など説明する。
2 回	バドミントンを実施する。
3 回	バドミントンを実施する。
4 回	バドミントンを実施する。
5 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
6 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
7 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
8 回	バレーボールを実施する。
9 回	バレーボールを実施する。
1 0 回	バレーボールを実施する。
1 1 回	バスケットボールを実施する。
1 2 回	バスケットボールを実施する。
1 3 回	バスケットボールを実施する。
1 4 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。
1 5 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、どのような種目をするのか把握しておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
2 回	バドミントンのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
3 回	バドミントンの基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
4 回	試合ルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
5 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
6 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
7 回	野外スポーツの疾病、傷害予防について調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
8 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
9 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 0 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 1 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 3 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 4 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 5 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 6 0 分)

講義目的	生涯の各ステージにおいて、環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を身につけるようにする。 スポーツ活動を観戦、支援（ボランティア）する楽しさを身につけた留用にする。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60	各種スポーツの進行、運営（3 0 %） 知識と技術（6 0 %） 安全への配慮（1 0 %）
関連科目	生涯スポーツⅡ、Ⅲ健康の科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	
注意・備考	第1回目の授業はC 1 号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 6 0 名超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） 第2回目以降の授業は、加計記念体育館（笹ヶ瀬キャンパス）で行います。

	四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 I (FB25S020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫＊ (ふじのかおる＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する③：参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。
8 回	前半の講義ををまとめる。中間テストを実施する。
9 回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10 回	経験や知識の文章化に取り組む。
11 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13 回	対立する意見を使って文章を構成する。
14 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16 回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習：前半の講義内容を確認し、中間試験の準備をすること。 復習：中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9 回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。

	(標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。 原則として、演習をすべて行うことが中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅱ
教科書	藤野薫・三木恒治・世良利和／文章表現法Ⅰ基礎編(パステルブルー版)／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB25S030)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、T P Oに応じて使いわけることを学ぶ。
7 回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	中間まとめと中間評価試験
9 回	＊事例①を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 0 回	＊事例②を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 1 回	＊事例③を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 2 回	＊事例④を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 3 回	＊事例⑤を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
1 4 回	＊経営者のエピソード①を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 5 回	＊経営者のエピソード②を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
1 6 回	＊まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
9 回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
1 0 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。 ④ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 ⑤自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価 (合格基準60)	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	※参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座（FB25S040）
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司＊（いいだてつし＊）, 桑田朋美＊（くわたともみ＊）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部(～15), 生物地球学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （※講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （※演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （※具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
2 回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田 朋美＊）
3 回	【コミュニケーションの強化①】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田 哲司＊）
4 回	【コミュニケーションの強化②】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田 朋美＊）
5 回	【セルフ・コントロール】 ビジネスマインドの軸である「チームワーク力」の発揮と強化を視野に入れたビジネス心理学と自己コントロール法について、体験ワークを通じて理解・習得する。 （桑田 朋美＊）
6 回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 （飯田 哲司＊）
7 回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田 哲司＊）
8 回	【実践的表現力強化演習】 集団の中での自分の活かし方を知る基礎であるブレインストーミングを通じて、自己理解と表現能力のアップを図る演習を実施する。 【第1回からの振り返り・中間テスト】 ここまでの講義を振り返り、習得度合いの確認とチェックを行う。 （桑田 朋美＊）
9 回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 （桑田 朋美＊）
10 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 （飯田 哲司＊）
11 回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー&ビジネスマナーの考え方と意味

	を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
1 2 回	【チーム力の強化演習①】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
1 3 回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
1 4 回	【チーム力の強化演習②】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
1 5 回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「集団の中での自分」の在り方・見せ方について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
1 0 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	自分をコントロールするとはどういうことか、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。(標準学習時間 60分)

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25U020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	生田夏樹* (いくたなつき*)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章① (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する (1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2 回	文章①を要約する (2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3 回	文章② (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する (1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4 回	文章②を要約する (2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5 回	与えられたテーマA (「協力のあり方について」) の文章を作成する (1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6 回	与えられたテーマAの文章を作成する (2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7 回	与えられたテーマAの文章を作成する (3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8 回	与えられたテーマAの文章を作成する (4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。中間試験を実施する。
9 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第9課題: アウトラインを作成する。
10 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第10課題: 本文を作成する。
11 回	与えられたテーマC (「創造性について」) の文章を作成する (1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
12 回	与えられたテーマCの文章を作成する (1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
13 回	与えられたテーマCの文章を作成する (2) 第13課題: 本文を作成する。
14 回	与えられたテーマD (「情報について」) の文章を作成する (1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
15 回	与えられたテーマDの文章を作成する (2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
16 回	与えられたテーマDの文章を作成する (3) 第16課題: 本文を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
9 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って

	生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
11回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間120分)
12回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
13回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
14回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間120分)
15回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
16回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	① 文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 ② 文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 ③ 与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価(合格基準60)	課題提出14回分(56%), 最終評価試験(44%), 60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法II」「プレゼンテーションIおよびII」
教科書	なし。
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 I (FB25V010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	生田夏樹* (いくたなつき*)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章① (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する (1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2 回	文章①を要約する (2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3 回	文章② (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する (1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4 回	文章②を要約する (2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5 回	与えられたテーマA (「協力のあり方について」) の文章を作成する (1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6 回	与えられたテーマAの文章を作成する (2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7 回	与えられたテーマAの文章を作成する (3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8 回	与えられたテーマAの文章を作成する (4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。中間試験を実施する。
9 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第9課題: アウトラインを作成する。
10 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第10課題: 本文を作成する。
11 回	与えられたテーマC (「創造性について」) の文章を作成する (1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
12 回	与えられたテーマCの文章を作成する (1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
13 回	与えられたテーマCの文章を作成する (2) 第13課題: 本文を作成する。
14 回	与えられたテーマD (「情報について」) の文章を作成する (1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
15 回	与えられたテーマDの文章を作成する (2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
16 回	与えられたテーマDの文章を作成する (3) 第16課題: 本文を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
9 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って

	生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
11回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間120分)
12回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
13回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
14回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間120分)
15回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
16回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	① 文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 ② 文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 ③ 与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価(合格基準60)	課題提出14回分(56%), 最終評価試験(44%), 60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法II」「プレゼンテーションIおよびII」
教科書	なし。
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	健康の科学 (FB25W010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方、内容と目的、受講の心得について説明する。人体の構造について説明する。
2 回	スキヤモンの発達・発育曲線と体力について説明する。
3 回	生活と健康、思春期以降変化する健康観と健康の定義について説明する。
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明する。
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明する。
8 回	主な生活習慣病について説明する。
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。
11 回	適応機制の種類と問題点について説明する。
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明する。
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明する。
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明する。
15 回	心身症について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業内容と目的の確認をすること。人体の構造について説明できるように復習を行うこと。スキヤモンの発達・発育曲線と体力について調べておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	スキヤモンの発達・発育曲線と体力について説明できるように復習すること。生活と健康、健康観と健康の定義について調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	生活と健康、健康観と健康の定義について説明できるように復習すること。わが国の平均寿命と疾病構造の変化について調べておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明できるように復習すること。健康寿命、成人病と生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明できるように復習すること。病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について調べておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明できるように復習すること。肥満症とメタボリックシンドロームについて調べておくこと。（標準学習期間120分）
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明できるように復習すること。主な生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	主な生活習慣病について説明できるように復習すること。サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について調べておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明できるように復習すること。マズローの欲求階層説について調べておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	マズローの欲求階層説について説明できるように復習すること。適応機制の種類と問題点について調べておくこと。（標準学習時間120分）
11 回	適応機制の種類と問題点について説明できるように復習すること。ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明できるように復習すること。ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明できるように復習すること。心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明できるように復習すること。心身症について調べておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	心身症について説明できるよう復習すること。講義全体の復習・整理をする。（標準学習時間180分）

16回	最終評価試験を通して、1回～15回までの内容を復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間180分）
講義目的	近年の健康問題は、生活習慣病や心理社会的ストレスが強くかかわった病気が主要となり、ライフスタイルが健康水準に大きく影響していることが明らかになっている。現在では、自分自身で健康を獲得していかなければならないという考えにたち、将来にわたってよりよく生きていくために、一人ひとりが健康について主体的に学び、考え、判断し、責任ある決定をすることができるようにする。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	きわめて多様な価値観が共存する今日の世界の中では、心身両面の健康課題も多い。健康を保持増進するためには、正しい知識と適切な行動が重要であることを理解する。（D） ①生活習慣病とその予防について理解する。（D） ②マズローの欲求階層説と、適応機制について理解する。（D） ③ストレスとストレスマネジメントについて理解する。（D） ④心身相関と心身症について理解する。（D）
キーワード	生活習慣病、メタボリックシンドローム、メンタルヘルス（精神衛生）、心身症
成績評価（合格基準60）	最終評価試験70%、提出課題30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。講義で資料を配布する。
参考書	指定しない。
連絡先	B3号館5階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	講義資料は、講義の中で適宜配布する。 講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 講義中に課した提出課題についてのフィードバックは授業で資料を用いて行う。 課題の提出期限を守ること。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25W020)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	山口立雄＊ (やまぐちたつお＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、種目、安全管理などの説明）をする。 履修希望者数が60人を超えた場合、抽選を行う。優先履修を希望する場合は事前に申し出る事。
2 回	バドミントンの基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
3 回	バドミントンのゲーム（復戦）をおこなう。
4 回	第一回班別学習。テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎をおこなう。
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
6 回	第二回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
8 回	第三回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 0 回	第四回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 2 回	卓球の基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
1 3 回	卓球の基礎とゲーム（復戦）をおこなう。
1 4 回	第五回班別学習。班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。
1 5 回	第六回班別学習。班替えをして班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。筆記試験を行う。

回数	準備学習
1 回	本授業で取り上げるスポーツ種目について、希望順位を決めておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	バドミントンの基本技術と単戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	バドミントン復戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 0 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 2 回	卓球の基礎技術とルール（単戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 3 回	卓球の基礎技術とルール（復戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 4 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 5 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。 本授業で取り上げたスポーツ種目に関する事項を復習しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	生涯のライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を養う。スポーツ活動を観戦、支援（ボランティア）する
------	--

	楽しさも身につけたい。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。 スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフ、バレーボール、フットサル、 バスケットボール、卓球、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60	各種スポーツの進行、運営（30%）、知識（30%）、技術（30%）、安全への配慮（10%） ）により 成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツⅡ・Ⅲ、健康の科学、福祉環境論
教科書	使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	自宅mail：tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	・第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。2回目以降は加計記念体育館等で行います。四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！ ・第1回目の授業には必ず出席すること。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） - 抽選で受講できなくなった場合、次週以降の受講は認めません。 ・用具、場所の都合で種目および実施順が変更になることがあります。 ・実施種目に関する筆記試験を適宜行います。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 I (FB25W030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する③：参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。中間テストについて説明する。
8 回	前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。
9 回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10 回	経験や知識の文章化に取り組む。
11 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13 回	対立する意見を使って文章を構成する。
14 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15 回	800字の構成について解説する。 最終評価試験について説明する。
16 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習：前半の講義内容を確認し、中間テストの準備をすること。 復習：中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9 回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。

	復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅱ
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著／「新・文章表現法Ⅰ基礎編」(群青色版)／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB25X010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	山口立雄＊ (やまぐちたつお＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、種目、安全管理などの説明）をする。 履修希望者数が60人を超えた場合、抽選を行う。優先履修を希望する場合は事前に申し出る事。
2 回	バドミントンの基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
3 回	バドミントンのゲーム（復戦）をおこなう。
4 回	第一回班別学習。テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎をおこなう。
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
6 回	第二回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
8 回	第三回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 0 回	第四回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう（前週の継続）。
1 2 回	卓球の基礎とゲーム（単戦）をおこなう。
1 3 回	卓球の基礎とゲーム（復戦）をおこなう。
1 4 回	第五回班別学習。班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。
1 5 回	第六回班別学習。班替えをして班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。筆記試験を行う。

回数	準備学習
1 回	本授業で取り上げるスポーツ種目について、希望順位を決めておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	バドミントンの基本技術と単戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	バドミントン復戦のルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
7 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
9 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 0 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 1 回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 2 回	卓球の基礎技術とルール（単戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 3 回	卓球の基礎技術とルール（復戦）について調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 4 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 5 回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。 本授業で取り上げたスポーツ種目に関する事項を復習しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	生涯のライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を養う。スポーツ活動を観戦、支援（ボランティア）する
------	--

	楽しさも身につけたい。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。 スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフ、バレーボール、フットサル、 バスケットボール、卓球、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60	各種スポーツの進行、運営（30%）、知識（30%）、技術（30%）、安全への配慮（10%） ）により 成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツⅡ・Ⅲ、健康の科学、福祉環境論
教科書	使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	自宅mail：tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	・第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。2回目以降は加計記念体育館等で行います。四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！ ・第1回目の授業には必ず出席すること。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） 抽選で受講できなくなった場合、次週以降の受講は認めません。 ・用具、場所の都合で種目および実施順が変更になることがあります。 ・実施種目に関する筆記試験を適宜行います。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 I (FB25X020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する①：参考文献を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する②：参考文献を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する③：参考文献を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。中間テストについて説明する。
8 回	前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。
9 回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10 回	経験や知識の文章化に取り組む。
11 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13 回	対立する意見を使って文章を構成する。
14 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15 回	800字の構成について解説する。 最終評価試験について説明する。
16 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習：指示された参考文献を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示された参考文献を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習：前半の講義内容を確認し、中間テストの準備をすること。 復習：中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9 回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。

	復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅱ
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著／「新・文章表現法Ⅰ基礎編」(群青色版)／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	スポーツとフィールド科学（ヨット）（FB25Z030）
英文科目名	Sports (Yacht)
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）, 森博史（もりひろし）, 藤川貴司*（ふじかわたかし*）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、海洋スポーツ・ヨットセーリング）をおこなう。（西村 次郎, 森 博史） （全教員）
2 回	海洋文化、海とヨットの基礎知識について説明する。（全教員） （全教員）
3 回	ヨットの科学の基礎知識（抵抗、復元力、浮力、安全性、帆走の原理）について説明する。（全教員） （全教員）
4 回	海洋スポーツの安全教育をおこなう。（全教員） （全教員）
5 回	海図、潮、天気図の見方について説明する。（全教員） （全教員）
6 回	水に慣れる（ライフジャケット着用での水泳）、艇体（マスト無し）を使っでの浮力体験など。（全教員） （全教員）
7 回	陸上での艀装、帆走練習、海上で沈の起こし方をおこなう。（全教員） （全教員）
8 回	離岸、接岸、基本的な海上帆走練習をおこなう。（全教員） （全教員）
9 回	港内での帆走、アビーム、ランニング、クローズホールドをおこなう。（全教員） （全教員）
1 0 回	海上で基本的な帆走をおこなう。（全教員） （全教員）
1 1 回	海上で帆走をおこなう。（全教員） （全教員）
1 2 回	無人島往復帆走（島に上陸、磯遊び）をおこなう。（全教員） （全教員）
1 3 回	三角レースをおこなう。（全教員） （全教員）
1 4 回	解装、艇体や用具の手入れ、片付けをおこなう。（全教員） （全教員）
1 5 回	海の安全知識（応用編）学び、実践をする。 実習の振り返りをする。（全教員） （全教員）

回数	準備学習
----	------

1 回	シラバスを見て講義内容を把握しておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	海やヨットの基礎知識について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	ヨットの科学の基礎について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	海での安全管理について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
5 回	海図、潮、天気図の見方について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
6 回	救命胴衣やヨットの艇体について予習を行うこと。(標準学習時間 100 分)
7 回	艀装について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
8 回	艀装について復習すること。海上帆走とヨットの走らせ方について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9 回	アビーム、ランニング、クローズホールドについて予習を行うこと。(標準学習時間100分)
10 回	基本的な帆走について復習すること。海の方法、ルール、マナーについて予習を行うこと。(基本学習時間120分)
11 回	海の方法、ルール、マナーについて復習すること。微風、強風等、自然環境に応じた帆走技術について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12 回	微風、強風等、自然環境に応じた帆走技術について復習すること。磯の生物の種類等について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13 回	ヨットレースの方法について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
14 回	解装の順序について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
15 回	総合的な海の方法に対する知識をまとめておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	科学技術の進歩とともに、新しい素材、用具が開発されスポーツ空間も拡大している。岡山県は瀬戸内海と穏やかな気候というマリンスポーツの実施に絶好の環境にある。風の力で動くヨット技術を習得し、自然の保護・保全にも配慮しながら共存していく態度を身につけたい。安全管理能力を高める。(教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	①海洋文化や安全管理、環境に対する理解を深めマリンスポーツを实践できること。(D) ②基本的な帆走技術を習得して帆走できること。(D) ③他者と協働して艀装、解装ができること。(D) ④「沈」への対応ができること。(D) ⑤基本的なロープワークができること。(D) ⑥危険回避のための危機管理ができること。(D)
キーワード	ディンギー、マリンスポーツ、海図、天気図、安全備品、ヨットレース
成績評価(合格基準60%)	艀装、帆走技術、解装、海でのマナー、他者との協働(70%) 安全に対する知識、实践(30%)
関連科目	生涯スポーツⅠ、Ⅲ、健康の科学、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村(次)研究室
注意・備考	岡山県瀬戸内市牛窓ヨットハーバーで実施する(前期集中、宿泊)。事前に説明会(4月)を実施するので(C1号館7Fに掲示します)受講希望者は必ず参加のこと。初心者や障がいのある学生も受講できます。天候などにより日程が変更になる場合があります。
試験実施	実施しない

科目名	スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) (FB25Z040)
英文科目名	Sports (Outdoor Sports for Eco-Tourism)
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう), 森博史 (もりひろし), 森一治* (もりかずはる*), 湯川治敏* (ゆかわはるとし*), 高野洋志* (たかのひろし*)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	・本実習は、奄美大島において、夏休み（8月下旬～9月上旬）に5泊6日で実施する。 ・現地での実習は、包括的教育連携協定締結先である奄美大島・瀬戸内町の協力を得て実施する。 ・①シーカヤックの基本的技術と応用（大島海峡での漕艇） ②シュノーケリングの基本技術と応用（大島海峡） ③冒険プログラム（やさしいサバイバル）により、仲間づくりやリーダーシップ養成を行う。 ④野外での安全管理（救急救命） ⑤島を学ぶ ・実習の円滑な運営のために実習前（5月～7月）に、4回程度、説明会や事前学習を行う。 ・シュノーケリングの基本技術習得のためにプール（潜水用）実習を行う。 ・実習後（9月末）に事後指導となる報告会を行う。 ・アクティブラーニングによるグループディスカッションを行う。
準備学習	・実習の安全管理や円滑な運営のために、4回程度の事前学習を行います。必ず出席して主体的に準備学習を行うこと。 ・課題については、講義においてフィードバックを行う。
講義目的	・海洋スポーツにおいて、シーカヤック、シュノーケリングの基礎的技術や応用技術を習得する。 ・自然体験を通じて、自分の身を守るための安全管理を学ぶ。 ・地域の自然環境や文化の保全、保護について理解を深め、大切に守っていく態度を養う。 ・自然体験や他者との協同により、社会人基礎力、リーダーシップ力を養う。（教養教育センター単位認定方針のDについてもっとも強く関与する）
達成目標	①シーカヤックにおいて着岸、離岸、パドリング、海上航行ができること。（D） ②シュノーケリングでジャックナイフや水抜きなどの動作ができること（D） ③安全に対する理解を深め危険回避ができること。（D） ④地域の自然や文化の特性を考察し、説明できること。（D） ⑤チームビルディングを構築し、役割を果たせること。
キーワード	エコツーリズム、自然、シーカヤック、シュノーケリング、協同、リーダーシップ、文化 奄美大島
成績評価（合格基準60	シーカヤック、シュノーケリングの技術、安全に対する知識（70%）、奄美の自然や文化に対する知識（30%）
関連科目	生涯スポーツⅠ、Ⅱ、健康の科学、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村（次）研究室
注意・備考	鹿児島県奄美大島瀬戸内町で実施予定。（8月～9月の間で5泊6日で実施予定、4月の説明会で実施日を通知する）。天候や諸事情により日程が変更になる場合があります。事前に説明会を実施するので希望者は必ず参加のこと。予定地である大島海峡、加計呂麻島海域は海面が非常に穏やかで透明度も高く、美しい場所です。実費経費（交通費、宿泊費、実習用具費等）が必要です。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導Ⅱ (FB35S210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇（たきざわのぼる）、吉村功＊（よしむらたくみ＊）、森田明義＊（もりたあきよし＊）、武田芳紀＊（たけだよしのり＊）、高見寿＊（たかみひさし＊）、糸山嘉彦＊（いとやまよしひこ＊）、山口一裕（やまぐちかずひろ）、米田稔（よねだみのる）、高原周一（たかはらしゅういち）、クルモフバレリー（くるもふばれりー）
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備（1）：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと（宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など）を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備（2）：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備（3）：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備（4）：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。（標準学習時間30分）
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。（標準学習時間120分）
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。（標準学習時間120分）
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。（標準学習時間120分）
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。（標準学習時間120分）
8回	反省点を各自で整理しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以
------	--

	上実践する（現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する）ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実施できるようになること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（科学ボランティアセンターの単位認定方針B「科学ボランティア活動を自ら展開する能力を身につける」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。評価の配分はつぎのとおり1) 毎回の準備活動状況(報告書に基づく) 20%、2) 企画書の内容 20%3) 実践活動(教員の評価ならびに受講生相互の評価) 20%、4) 事後報告書 20%、5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館5階電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認のこと○科学ボランティアセンター所在：B4号館1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐している。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(＝初回の講義)には必ず出席すること。・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」・この授業は、受講者の主体的な活動(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学・工作ボランティア入門 (FB35Z110)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activitiy for Scie nce and Technology
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレー (くるもふばれりー)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義内容と進め方の説明) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2 回	講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3 回	発表会準備 (1) 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4 回	発表会準備 (2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。発表会の内容を決定する。 (全教員)
5 回	発表会準備 (3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6 回	発表会準備 (4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7 回	発表会準備 (5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。(全教員) (全教員)
8 回	発表会準備 (6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9 回	発表会準備 (7) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける (予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
10 回	発表会準備 (8) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。 (全教員)
11 回	発表会準備 (9) 発表会の準備を完了させる。 (全教員)
12 回	発表会 (1) 発表会で発表する。※ 12回目～14回目は土曜日に連続して行う。

	(全教員)
1 3 回	発表会 (2) 他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 4 回	発表会 (3) 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。発表会の片づけを行う。
	(全教員)
1 5 回	この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	紹介したウェブサイトを閲覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3 回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4 回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5 回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6 回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7 回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べる。 (標準学習時間120分)
8 回	各人が分担した作業 (物品の確保、シナリオ・フリップの作成など) を行うこと。(標準学習時間60分)
9 回	予行演習の準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。発表会当日の会場設営・準備に参加すること。(12回目～14回目の合計の標準学習時間180分)
1 3 回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
1 4 回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
1 5 回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	近年、市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されるようになった。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。 まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につける。同時に、社会人として必要となるコミュニケーション力等の汎用的な能力の向上も目指す。グループ内での討論、教員への報告、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。(科学ボランティアセンターの単位認定方針A「科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し卒業後も地域で科学ボランティアリーダーとして活躍する意欲をもつ」に強く関与)
達成目標	1. 科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し、これに積極的に参加する意欲をもつ。 2. 科学ボランティア活動を行う上で最低限必要となる知識・能力を身につける。 3. 科学・技術全般に関心をもつ。 4. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
成績評価 (合格基準60)	レポートの内容 (70%)、発表会の内容 (30%) によって評価する。発表会の評価には、受講生相互の評価も加味する。

関連科目	科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	「ものづくりハンドブック 1～7」 たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・本クラスは基本的に土曜日に行う。 ・具体的な日程は教務の掲示板に張り出す。 ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・本講義は科学ボランティアリーダー資格認定の必修の講義である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導Ⅱ (FB35Z210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇（たきざわのぼる）、吉村功*（よしむらたくみ*）、森田明義*（もりたあきよし*）、武田芳紀*（たけだよしのり*）、高見寿*（たかみひさし*）、糸山嘉彦*（いとやまよしひこ*）、山口一裕（やまぐちかずひろ）、米田稔（よねだみのる）、高原周一（たかはらしゅういち）、クルモフバレリー（くるもふばれりー）
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備（1）：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと（宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など）を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備（2）：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備（3）：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備（4）：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。（標準学習時間30分）
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。（標準学習時間120分）
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。（標準学習時間120分）
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。（標準学習時間120分）
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。（標準学習時間120分）
8回	反省点を各自で整理しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以
------	--

	上実践する（現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する）ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実施できるようになること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（科学ボランティアセンターの単位認定方針B「科学ボランティア活動を自ら展開する能力を身につける」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。評価の配分はつぎのとおり1) 毎回の準備活動状況(報告書に基づく) 20%、2) 企画書の内容 20%3) 実践活動(教員の評価ならびに受講生相互の評価) 20%、4) 事後報告書 20%、5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館5階電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認のこと○科学ボランティアセンター所在：B4号館1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐している。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板に張り出す。・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。日程はチームごとに担当教員と相談して決定する。・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているので、積極的に活動すること。・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア活動 (FB35Z310)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 衣笠哲也 (きぬがさてつや), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 加藤賢一 (かとうけんいち), 重松利信 (しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレリー (くるもふばれりー), 菅野幸夫 (かんのさちお)
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。 科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2 回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導ⅠおよびⅡで扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15 回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに科学ボランティアセンターまで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。こ

	れまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。（標準学習時間90分）
15回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行こと。成果発表会で行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。（標準学習時間90分）
講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加することで地域の科学教育振興に貢献するとともに、科学ボランティア活動に必要な能力および社会人として必要な汎用的能力の向上を図る。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行う。なお、この成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。（科学ボランティアセンターの単位認定方針B「科学ボランティア活動を自ら展開する能力を身につける」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学教育振興に貢献する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学イベントを自ら企画・運営することができる。 3) 科学実験教室や科学イベントで使える教材を5つ以上知っている。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などをもっている。
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
成績評価（合格基準60	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数（20%）、活動報告書（20%）、振り返りレポート（10%）、成果発表会の企画書（10%）、発表内容（40%）により評価する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱ
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・この科目は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱの単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・科学ボランティア活動部分（2～13回目）については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会（科学・工作ボランティア入門の講義の1回目）に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（日時・場所は教務の掲示板に張り出す）に必ず出席すること。 ・科学ボランティア活動、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会における教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	日本国憲法 (FV25P110)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	憲法の基本について学ぶ。そもそも憲法とは何か、憲法の目的とは何か、日本国憲法の基本原則、人権とは何かについて学ぶ。
2 回	人権の限界と違憲審査制について学ぶ。人権といえども制約を受けることがあるが、どのような場合に人権の制約が許されるのかについて検討する。そして、その人権制約の合憲性を審査するための制度である違憲審査制について学ぶ。
3 回	法の下の平等について学ぶ。まず、法の下の平等の意味について学ぶ。そのうえで、どのような場合に別扱いが許されるのかについて、具体的な事件に基づいて学ぶ。
4 回	精神的自由権の中の、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由について学ぶ。それぞれの人権の意味および保障内容を学んだうえで、それぞれの人権の制約の可否について、具体的な事件に基づいて学ぶ。また、人権保障を強化する手段である制度的保障について、政教分離原則および大学の自治を通じて学ぶ。
5 回	精神的自由権の中の、表現の自由について学ぶ。表現の自由を保障する意義を学んだうえで、表現の自由の制約の可否について、具体的な事件に基づいて学ぶ。
6 回	経済的自由権の中の、職業選択の自由について学ぶ。人権制約の合憲性審査における精神的自由権と経済的自由権の違いについて学んだうえで、職業選択の自由の制約の可否について、具体的な事件に基づいて学ぶ。
7 回	経済的自由権の中の、財産権について学ぶ。財産権の保障内容について学んだうえで、財産権の制限に関する規定について学ぶ。
8 回	人身の自由について学ぶ。基本となる適正手続の保障について学んだうえで、被疑者の権利および被告人の権利について学ぶ。
9 回	社会権について学ぶ。社会権と自由権との違いについて学んだうえで、生存権、教育を受ける権利、労働基本権の保障内容について学ぶ。
10 回	参政権について学ぶ。特に選挙権の保障内容と、選挙に関する原則について学ぶ。
11 回	受益権について学ぶ。請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、損失補償請求権といった、各種受益権の保障内容について学ぶ。
12 回	新しい人権について学ぶ。たとえば、日本国憲法では、プライバシーという言葉は出てこない。そうした、日本国憲法に明記されていない人権が、憲法上保障されるのがについて学ぶ。

1 3 回	特別な法律関係における人権について学ぶ。たとえば、受刑者は刑務所の外に出ることができないなど、一般国民とは異なる人権制約を受ける。このような人権制約がなぜ許されるのかについて学ぶ。
1 4 回	人権享有主体性について学ぶ。日本国憲法では、国民の権利として人権を保障するという規定になっているので、日本国民ではない外国人や法人に対しても人権が保障されるのかについて学ぶ。
1 5 回	私人間における人権規定の効力について学ぶ。そもそも憲法は国家と国民との間において適用されることが予定されている。しかし、現代社会では私人による人権侵害が多発しているので、これを防ぐために憲法の人権規定をどのようにして私人間に適用するかについて学ぶ。
1 6 回	最終評価試験

準備学習	
回数	
1 回	芦部『憲法』を読んで、憲法の分類、人権の分類についてまとめること。
2 回	芦部『憲法』を読んで、公共の福祉と人権との関係についての学説についてまとめること。
3 回	芦部『憲法』を読んで、法の下での平等の意味についてまとめること。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている法の下での平等に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
4 回	芦部『憲法』を読んで、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由の保障内容についてまとめること。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
5 回	芦部『憲法』を読んで、表現の自由を保障する価値についてまとめること。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、表現の自由に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
6 回	芦部『憲法』を読んで、人権制約の合憲性審査における精神的自由権と経済的自由権との違いを把握すること。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、職業選択の自由に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
7 回	芦部『憲法』を読んで、財産権の保障内容についてまとめること。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、財産権に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
8 回	芦部『憲法』を読んで、具体的にどのような権利が保障されているのかを列挙してまとめること。また、『憲法判例百選Ⅱ』に掲載されている、人身の自由に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
9 回	芦部『憲法』を読んで、生存権の法的性格に関する学説をまとめること。また、『憲法判例百選Ⅱ』に掲載されている、社会権に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。

10回	芦部『憲法』を読んで、選挙に関する原則をまとめてみる。また、『憲法判例百選Ⅱ』に掲載されている、参政権に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
11回	芦部『憲法』を読んで、受益権にはどのような権利が含まれているのかを調べてみる。また、『憲法判例百選Ⅱ』に掲載されている、受益権に関する各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
12回	新しい人権としてどのような人権が主張されているか調べてみる。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、新しい人権に関する各判例について、どのような権利が主張されているのかを把握すること。
13回	『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、特別な法律関係における人権が問題となっている各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
14回	『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、人権享有主体性が問題となっている各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。
15回	私人間の人権侵害の具体例について調べてみる。また、『憲法判例百選Ⅰ』に掲載されている、私人間における人権規定の効力が問題となっている各判例について、何が憲法上問題となっているのかを把握すること。

講義目的	憲法は、その国のあり方を示し、また国家と国民の関係を規律する国家の基本法であり、最高法規である。それでは日本国憲法は、いかなる理念と根本原理に基づいて成立しているのだろうか。また、いかなる基本的人権が保障されており、それらの制限・侵害が問題とされた場合、どのように救済されるのだろうか。このような日本国憲法に関する基本的事項を習得しておくことはある意味、この国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この講義では具体的事件に関わる判例を適宜取り上げ、主に基本的人権と違憲審査制に焦点を当てて、日本国憲法の法理を考察する。
達成目標	○憲法の目的について説明できるようになること。 ○人権とは何かについて説明できるようになること。 ○人権の限界について説明できるようになること。 ○具体的な人権の保障内容について説明できるようになること。 ○違憲審査制について説明できるようになること。 ○人権制約の可否について判例を踏まえて説明できるようになること。

キーワード	憲法, 人権
成績評価（合格基準60	各回に実施する基礎力テスト（比率10%）および応用力テスト（比率40%），最終評価試験（比率50%）により評価する。100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
関連科目	法学A, 法学B
教科書	憲法（第6版）／芦部信喜／岩波書店／978-4000227995
参考書	憲法判例百選Ⅰ（第6版）／長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）／有斐閣／978-4641115170：憲法判例百選Ⅱ（第6版）／長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）／有斐閣／978-4641115187
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FV25P120)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	高橋正行＊ (たかはしまさゆき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、種目・目的・受講の心得、施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。）
2 回	バドミントンの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
3 回	バドミントンのシングルのルール説明を行った後、班に分かれてゲームをする。
4 回	バドミントンのダブルスのルール説明を行った後、班に分かれてゲームをする。
5 回	バレーボールの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
6 回	バレーボールのルール説明を行った後、基本練習をする。
7 回	バレーボールの基本練習を行った後、班に分かれてゲームをする。
8 回	アーチェリーの用具の準備と片付けの仕方、安全面の説明を行った後、基本技術の練習をする。
9 回	アーチェリーのルール説明を行った後、基本技術の練習をする。
1 0 回	アーチェリーの基本練習の後記録をとる。
1 1 回	アーチェリーの基本練習の後記録をとる。
1 2 回	ゴルフの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
1 3 回	ゴルフのルール、エチケット、マナーの説明を行った後、基本技術の練習をする。
1 4 回	ゴルフコースの説明とラウンドのルール、マナーについて確認の後、技術練習をする。
1 5 回	ゴルフコースを回ってスコアをつける。 講義全体の振り返りとまとめ

回数	準備学習
1 回	規則正しい生活（十分なすいみんと食事の摂取）を心がけ、体調を整えて授業に参加すること。
2 回	サービス、クリア、ドロップ、スマッシュなどの基本的なことについて理解しておくこと。
3 回	個人技術を高めるとともにシングルの試合方法を理解しておくこと。
4 回	個人技術を高めるとともにダブルスの試合方法を理解しておくこと。
5 回	パス、サーブの基本的な種類を理解しておくこと。
6 回	6人制のルールを理解しておくこと。
7 回	基本技術とコミュニケーションを生かした展開を心がけること。
8 回	アーチェリーについて道具や競技を理解してくること。
9 回	個人技術を高めるために、基本を復習してくること。
1 0 回	基射形を相互にアドバイスできるようポイントを復習してくること。
1 1 回	高得点が出るよう学んだことを復習しておくこと。
1 2 回	ゴルフ用具（クラブ）やゴルフ用語を理解しておくこと。
1 3 回	特にエチケット、マナーについては十分理解しておくこと。
1 4 回	安全面、ルール、マナーについて復習しておくこと。
1 5 回	グループで注意すべき事やルールを理解しておくこと。

講義目的	人生の各ライフステージにおいて、それぞれの立場や技術に応じたスポーツ活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努めることのできる態度や能力を養う。内容として、①スポーツ文化を通じて異文化理解を深める②各種目のルールを理解し、ゲームの進行や運営に協同して主体的に関わる③スポーツ傷害の予防と基礎的なメディカルチェックの実践④スポーツの楽しみ方（スポーツ実践、スポーツ支援、観戦、スポーツ情報の獲得）を行う。 （単位認定の方針Dに強く関与する）
達成目標	健康的な生活を送るために、スポーツを実践することによって健康・体力の保持増進を図るための方法を学習する。 1. スポーツ活動に積極的に参加し、生涯にわたってスポーツを楽しむ基礎知識を習得する。 2. スポーツを実践することによって、ルール・エチケット・マナー等を習得する。 3. 各スポーツに必要な運動技能の習得に努めることができる。 4. 仲間とコミュニケーションを図り、班内における役割を果たすことができる。
キーワード	球技、対人競技、個人競技、体力、健康、コミュニケーション
成績評価（合格基準60	実習に取り組む姿勢や実技能力など50%、実習期間中に記入する授業記録50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
関連科目	健康の科学

教科書	教科書は使用しない。プリント等を配布する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に実施場所で質問を受け付ける。
注意・備考	諸般の事情（天候や施設など）により各回の授業内容が変更になる場合がある。
試験実施	実施しない